

アフターコロナの日本経済

第一生命経済研究所首席エコノミスト

熊野 英生

- * 不安心理を煽るPCR検査不足
- * リーマンショック時の対応に学ぶ
- * 考えられる消費回復のシナリオ
- * 延期された五輪や給付金の効果について
- * 注目すべきは隠れ失業
- * 安倍政権の政策対応に欠けているもの
- * 財政悪化にいかに対処してゆくか
- * コロナ後も増えるデジタル化技術は何か
- * テレワークで生産性をいかに上げるか
- * デジタル化は経営改革の好機



柴生田 それでは開会いたします。

本日は第一生命経済研究所の熊野さんにおいていただきました。もう何回もおいでいただきありがとうございますのでご紹介の必要もないかと思いますが、1967年のお生まれで、横浜国大を卒業後日本銀行に入られ、その後、2000年から第一生命経済研究所に移られております。現在、首席エコノミストとしてご活躍でございます。

本日は3月以降、コロナ禍の影響で経済がたいへん難しい状況に陥っておりますので、アフターコロナの日本経済の状況につきましてどういったことを考えなければいけないのかご解説をいただきたいと思えます。それではよろしくお願いたします。

熊野 第一生命経済研究所の熊野でございます。

今日はこういう機会をいただき、たいへんありがたく思っております。実は私はコロナの中で人前で話す講演会のような仕事が3カ月間まったくなかったのです。今日が復帰第一戦と3カ月間講演をできなかったというのはこの20年ぐらい一度もなかったもので、そういう意味では経済倶楽部でお話をする機会をいただいたということに関しては皆様にたいへん厚く御礼を申し上げます。たぶんほかの講師の方も私と同様に思っていると思えますので、この場をかりて御礼申し上げます。

今日はアフターコロナの日本経済はどうなるかです。日本経済はリーマンショックほどではないですが、リーマンショック以来の大きな急